

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel : 997-2189 メール : airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



県境に位置する柱島は西瀬戸の海上交通にとって重要な意味を持つ島



かつて、忽那七島の 一つとされた 柱島を訪ねる。

『忽那ロマン探訪』を掲げ、島の歴史的魅力の発掘に本格的に乗り出した松山離島振興協会が、今、最も注目しているのが山口県 岩国市の柱島です。協会では早速、柱島を訪れ、島から忽那諸島を顧みて初めて、中島 泰山を望むその好立地の実情を目の当たりにしました。

柱島は、山口・広島・愛媛三県の海の県境に一番近い有人島で、忽那諸島からすると、津和地島の沖わずか7kmに浮かぶ、とても隣県とは思えない身近さで存在している島です。柱島は、その距離と位置的重要性から、かつては忽那七島の一つに数えられており、無論、その行き来も頻繁であったといえます。しかし現在では、行政区はおろか、県域も他県ということ、その交流は希薄となり、今では近くて遠い島となってしまいました。

海運が陸運にとって代わり、瀬戸内海が海上交通の大動脈となった時代に、いかに柱島が重要な立地にあつたか、その覇権をめぐる幾多のせめぎあい、繰り広げられたか。今回、『忽那ロマン』の探訪に取り組む中で、遥かなる昔日に思いをめぐらすたびに、ここ西瀬戸に深く刻まれた歴史ロマンへの思いは、ますます掻き立てられていくのです。私たちは今回改めて、柱島の存在意義を再認識するとともに、さらに今後、環・瀬戸内海の連携による発展ということを視野に入れる時、柱島の存在がまた新たな意味を持つのではないかと期待しています。

そこで、協会では今後、柱島との連携を視野に、人的交流の機会を模索していきます。柱島の名は、忽那義範公が地頭職として島に居城を築いた中世の時代のみならず、幕末に無念の死を遂げた島出身の長州藩士 赤禰武人の墓や、戦艦 陸奥の爆沈に伴う英霊の墓など柱島を語る上で欠かせない歴史遺産とともに、今に息づいているのです。忽那諸島同様に、半農半漁の生活で、釣り客なども多く訪れている柱島との新たな広域連携が、周防大島に続く第二の山口県との島連携として、瀬戸内の島ネットワークのさらなる発展に寄与していくことでしょう。

忽那ロマン探訪クルージング

—中世の 海人あまびとの航跡をたどる旅—



美しい航跡の向こうに、忽那水軍の雄姿を眺むる旅

平成二十三年九月十九日、朝九時、子どもたち十六人を含む百二十七人を乗せたフェリー「神和」が松山観光港を出港しました。祝日の今日、乗客のみなさんは忽那の民の足跡ならぬ航跡をたどるべく、その視界には中世の瀬戸内をイメージし、ゆったりとした船の旅に出かけたのでした。台風十五号の発生で、一時は延期も考えましたが、台風が沖縄近海で立ち往生し、松山地方の天気は小康状態となります。前日から降ったり晴れたり不安定な空が続く中、当日の朝は快晴も、十五時から再び雨の予報。でも参加のみなさんの思いが通じてか、晴れ間は松山観光到着まで続き、帰港と同時の雨…。なんとか無事にクルージングを催行することができました。

まず、みなさんに乗せた船は、松山観光港から興居島の南を抜け、釣島を右舷に見、由利島をめざします。その間にも、ガイドからは、海人の歴史や島の伝説などが次々に紹介され、否が応でも忽那ロマン探訪への機運は高まっていくのです。

というのも、今回のクルージングは、日本離島センターの人材育成事業の一環で実施したツアーであり、多くの方に忽那諸島の魅力を感じていただくことに加え、ガイド育成が一方の主眼となっています。協会も、歴史探訪の切り口でクルージングを企画・催行したのは初めてのことで、全行程をそうした視点で捉える面白さを主催者として大いに感じたところです。今回、ガイド役を務めてくれたのは、重松さん、豊田さん、能田さんのお三方で、それぞれの得意分野を生かされてのユニークな物語を道中切れ間なく披露いただきました。

さて、由利島を見届けた一行の船は、次に山口・広島・愛媛の県境をめざします。その地点の近くには、かつて忽那七島の一つに数えられた柱島が浮かび、安芸灘の入り口をしっかりとガードしているかのようです。忽那水軍領海の北限を確認した後、船は津和地港へと入港しました。集会所で、ふくみ旅館特製のしめめし弁当を堪能しながら、地元の木さんのユーモラスな解説をお聴きし、それぞれに街並みを散策して、お茶屋在りし日の津和地に思いを馳せました。津和地港を出港した船は、怒和島の脇にあるクダコ島と中島との間を流れるクダコ水道を経て、北へ進路を取り



とても熱心なお客様方の表情や姿勢にガイドの語り熱も自ずと高まり『忽那ロマン』探訪の旅は最高潮を迎えます

ます。満腹の一行を次に迎えたのは、北条地区の安居島。忽那諸島の最北端の島として、現在は特産の「生ひじき」で島おこしに取り組む島の歴史が、遊女の悲話とともに語られました。その後、船は南下し、次の上陸地点の野忽那島へ向かいます。地元の女性陣が開いた特産品販売テントが立つ野忽那港に降り立ち、健脚のみなさんは皿山をめざします。のんびりコースのみなさんは、宇佐八幡神社へ参拝。さざえの壺焼きをビールで楽しみ、おみやげには蒸しパンや寒天、ジャムなどを買い求め、一行は野忽那島を後にしました。帰路、船は北条 鹿島へ大接近し、普段は絶対見られない沖からの夫婦岩を凝視、その後、堀江海岸から白石の鼻を経由して、帰港の運びとなりました。参加をいただいた百二十七人のみなさんからは、アンケートに「かなり満足」との声を多くお寄せいただきました。協会では今後も、忽那諸島の歴史探訪を一つのキーワードに、島の活性化に努めていきたいと考えています。

睦月のめっちゃたのしいNATSU

野忽那島で平成十八年度から開催し、その後、睦月島へと舞台を変え、今回で3回目となったNPO法人 松山子ども劇場21の「夏のシーサイドキャンプ」。今年、四十二人の小中学生が参加しました。訪れる街の子どもたちも、送り出す親御さんにとっても、島が身近な存在になったことをとてもうれしく思います。



当初から睦月キャンプの受け入れに協力をいただいている島の田中治理事は、協会の観光振興部長。観光振興の観点から導入した「地引網体験」を子どもたちに提供し、魚のかかった網の重さを体感させてくれています。また、前回から引き続き「石絵体験」を指導してくれている池下英俊さん

は、わざわざ中島 神浦から駆けつけてくれています。「島ならではの体験学習を子どもたちに味わわせたい」は、劇場の中矢操理事長の弁。それまでされていたという中山間地域のキャンプとはまた違った、島嶼部ならではの新たな出会いを大切にしたい。ただ、ありがたく思います。



新名物の『三津浜珍踊り』が登場！／三津浜商店街



島とは切っても切れない間柄のまち 三津浜に、新たな名物が誕生しました。その名も『三津浜珍踊り』。読んで字のごとく、本当に珍しい、これまであまりなかったエネルギッシュな催しの登場です。

8月27日 土曜日、商店街の公園に突如組み上げられたステージでは、思い思いのいでたちをした老若男女が自らを猛烈にアピール。酔客の声援も混じり、会場は徐々に熱気を帯びていきます。南米音楽の生演奏にサルサのダンス、その後は懐メロをバックに踊りの輪が延々と連なり、時とわれを忘れた群衆は、思いのままに踊り狂うのでした。これぞまさに珍百景！三津浜商店街の新たな呼び物となること請け合い。特別ゲストの中村知事も大絶賛の夜でした。

婚活イベントを屋内開催 【婚活でしまを笑顔に】—らぶらぶ愛ランド作戦—



しまはくの期間中、各島で催された婚活のイベント。うまくいった人もあれば、涙を飲んだ人も…。ふつつ、こうしたイベントは、野外で、しかも大自然に抱かれ開催されるのが常。島の若者にとってはわが縄張りの島内でホームゲームとして参加したいところでしょう。しかし相手側にとって敵地のゲームはあまりに不利。二の足を踏んでしまいます。そこで今回、島のみannaにはアウェーともいえる街に思い切って出かけてもらい、屋内イベントに初挑戦してほしいと思います。今回、協会が提案するのは、三番町の男女共同参画推進センター「コムズ」での婚活イベント。しま料理の調理を共同体験する中で、恋の導火線を見つけ、二人で見事に着火してほしいと思っています。イベントの開催は1月28日 土曜日。詳細は秋冬号で詳しくお知らせします。来たれ、島の若人たちよ！

【地域産業部】

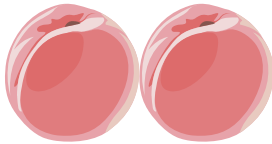
興居島の桃は昔から有名。そのことは街の人たちも良くご存じです。かの子規さんが「鶏（とり）なくや 小富士の麓 桃の花」と詠んだほどの、往時の実り様が偲ばれます。

今年は、自慢の逸品を道後湯あがり朝市に加え、三津の花火クルーズでも販売し、たいへん好評をいただきました。なんともいえない香りとしたたる果汁が、世代を問わず愛される桃自体の魅力なのでしょう。これからも品質にこだわりながら、一生懸命、興居島の桃を守り育てていきたいと思っています。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 島原和暁

TEL961-3293



【観光振興部】

今年で26回目を迎えたトライアスロン中島大会。かつてない荒天に見舞われ、選手のコンディション面への影響はもちろん、主催者としてもたいへん苦勞しました。これまでの大会でも雨に祟られたことはありましたが、そこは鉄人たちのこと、大抵のハンデには動じません。しかし台風の接近ともなると主催者は別の決断を迫られることとなります。結果、天の神の許しの下、なんとか無事に競技を終えることができ、私にとっては、生涯、忘れられない大会となりました。

《お問い合わせ・お申し込み》

事務局長 俊成雅直

TEL997-2189



【しまづくり部】



松山離島振興協会の主催による初めての『婚活イベント』が開催されます。個人的には、婚活はどんな事業よりも有益な、そして大切な取り組みではなかろうかと思っています。もちろん島にとっての話ではありますが、島が元気でにぎわうためには、若い力が重要となります。しかし、それだけでは足りず、高齢者の知恵や経験も欠かすことはできません。忽那諸島の各島がこぞって力を出し合い、手に手を取ってつながることで、かつてないパワーを持って、このきびしい時代を乗り越えたいものです。そのためにも私たち協会は、これからも島の若い人たちに勇気や希望を与えられる環境づくりに、精一杯取り組んでいきたいと考えています。

《お問い合わせ・お申し込み》

監事 赤崎 務

TEL961-2102

まつやま里島ツーリズム協議会のHPは **要チェック**

<http://ritoumeguri.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆